

「アントレプレナーシップ教育」

文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域振興課 産業連携推進室

はじめに

アントレプレナーシップ教育は、欧米では、大学等を中心に専攻や学位を設けて本格的に提供されており、初等中等教育段階でも様々な形で取り入れられています。文部科学省では、約10年前から研究者・大学生を対象としたアントレプレナーシップ教育プログラムを提供してきました。近年では、対象を小中高の子ども達にも広げ、子ども達が起業やチャレンジすることを身近に感じ、自ら考えて行動に移すことができるようになることを目指しています。本稿では、アントレプレナーシップ教育の考え方や全国で行われている取組を紹介したいと思います。

アントレプレナーシップとは？

「アントレプレナーシップ」、直訳すると「起業家精神」と訳されるため、起業を目的とした教育と認識されることが多いですが、実はそうではありません。

文部科学省では、「アントレプレナーシップ」を「様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自らの枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神」としています。そして、「アントレプレナーシップ教育」を、「自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジすることや、他者との協働によって解決策を探求することができる、知識・

能力・態度を身に付ける教育」と位置付けてきました。したがって、アントレプレナーシップ教育の推進により、起業に限らず、例えば既存の民間企業における新規事業の企画・立案やNPO等の非営利団体の立ち上げなど、多様な形で経済社会の課題解決に貢献する人材が育つことが期待されています。

また、アントレプレナーシップ教育は、大きく分けて「醸成」と「発揮」の二段階で整理しています。「醸成」の段階は、社会課題を見つけ、「まずはやってみる」といった行動を起こしていくための精神を養う段階、「発揮」の段階は、実際に課題を解決する際に必要な専門知識を身に付け、実社会において実践的にチャレンジする段階と整理しています。このように、アントレプレナーシップ教育は、起業に必要な知識だけでなく社会に存在する様々な課題に対し、自ら主体的に考え、行動するような姿勢も身に付ける幅広い教育です。

小中高の子ども達へのアントレプレナーシップ教育

文部科学省では、小中高生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムを推進しています。

その中核となる取組が、国立研究開発法人科学技術振興機構のプログラム「大学発新産業創出プログラム START事業 (EDGE-PRIME Initiative)」(以下「EDGE-PRIME」とする。)です。本事業では、大学

と連携する小中高校等が連携し、大学のこれまでの教育のノウハウを生かしながら、大学の教員等が小中高の子ども達に教育プログラムを提供しています。例えば、身近な社会課題を探る基礎的なものからビジネスアイデアの検討・発表といった実践的なものまで様々な教育プログラムを提供しています。

また、文部科学省において、著名な起業家等を「アントレプレナーシップ推進大使」として任命し、学校現場等に派遣して講演やワークショップ等を行う取組も実施しています。

これらの取組の実施事例をいくつか紹介させていただきます。

「EDGE-PRIME 実施事例」

千葉県立千葉商業高等学校×千葉大学学術研究・イノベーション推進機構 (IMO) による「総合的な探究の時間」を活用した協働プログラム」

「千葉公園で価値を生み出す事業を考えよう」をミッションに、千葉県立千葉商業高等学校と千葉大学IMOが連携し、1年生(約300名)・2年生(約300名)は全2コマ、3年生(約300名)は全6コマで「総合的な探究の時間」と「ロングホームルーム」を活用したアントレプレナーシップ教育を実施しました。

生徒は「千葉公園」をテーマに顧客価値と社会価値を満たすよう



なビジネスアイデアを協働で創出する体験を通じて、

実社会での企業の役割に対する見方や考え方を身に付けました。特に3年生は、ゲスト講師である行政や地元企業の方からプレゼン方法や価値創造の考え方についてアドバイスを貰い、最終的にグループ

で考えたアイデアを発表しました。

主な講師は千葉大学 I MO スタートアップ・ラボの小牧瞳氏と郡司日奈乃氏が担当し、今回のような授業を他高校でも自律的に実施できるようプログラム開発から伴走支援まで実施しています。



千葉大スタートアップ・ラボエゴ 千葉商業高校関連記事
<https://startup-tab.chiba-u.jp/tag/chiba-syougyou/>



〈アントレプレナーシップ推進大使 派遣事例〉

出雲 充氏

日本経済団体連合会 スタートアップ
 委員長

株式会社ユーグレナ 代表取締役社長

社会課題を自分ごととして捉えたきっかけや、周囲からの反対、複数の失敗の経験から、これまでにない市場への挑戦、粘り強く努力し続ける姿勢等、小中高生に対して自ら事業を創り出すという選択



肢があることを講演形式の授業で伝えていきます。

島岡 未来子 氏

早稲田大学 研究戦略センター教授
 神奈川県立保健福祉大学 教授

身の回りの限られたリソースの中で新たな価値を生み出す創造力や不確実性に対する対応力を身に付ける実践的なワークショップを実施しています。本ワークショップを通じて、自分やクラスメイトが

今もっている素晴らしい資源に気づき、できることから行動することを体感し、失敗を恐れずに挑戦する姿勢を身に付ける授業を行っています。



おわりに

アントレプレナーシップ教育は、子ども達がチャレンジを身近に感じ、積極的に行動することの楽しさや大切さを感じられる機会を増やすことにつながります。さらに、教員にとっても、企業等との外部組織との連携を通じて新たな視点や教育方法を知る機会にもなると考えられます。社会の変化が加速し、将来予測が一層困難になるこれからの時代に、社会とのかかわりの中で自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力を育むアントレプレナーシップ教育の重要性は増しています。文部科学省では、アントレプレナーシップ教育をより多くの子ども達に提供できるように、今後も取組の充実を図っていきます。

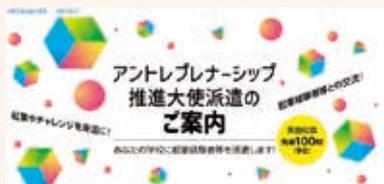
参考：ご案内

文部科学省では令和7年2月に、「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」(ハイブリット開催)を実施しました。主に大学生向けのプログラムではありますが、高校生や小中高の教員の方々にも多く参加いただきました。

当日の様子を「アントレプレナーシップオフィシャルサイト」に掲載しております。プログラムの内容をご覧になることで、よりアントレプレナーシップ教育の理解を深めることができると思いますので、是非ご覧ください。



アントレプレナーシップオフィシャルサイト
<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/>



アントレプレナーシップ推進大使について
<https://www.jst.go.jp/start/entrepreneurship/index.html>